

原田三朗教授の経歴ならびに研究業績

〔経歴〕

- 1935年（昭和10年）東京・赤坂生まれ
1959年（昭和34年）東京大学文学部卒業。科学技術庁（総理府事務官）を経て
1960年（昭和35年）毎日新聞社入社。長野支局を経て
1962年（昭和37年）東京本社編集局社会部
1966年（昭和41年）留学休職（イリノイ州立南イリノイ大学大学院ジャーナリズム研究科）
1967年（昭和42年）復職。東京航空記者会担当
1968年（昭和43年）千葉支局
1969年（昭和44年）社会部。安保学生班，文部記者会担当
1971年（昭和46年）社会部。遊軍記者
1972年（昭和47年）社会部。外務省（霞クラブ）担当
1974年（昭和49年）社会部。国際事件キャップ，遊軍長
1975年（昭和50年）社会部副部長
1978年（昭和53年）東京本社編集局編集委員
1979年（昭和54年）人事院公務員倫理研修研究部会委員
1980年（昭和55年）毎日新聞教育取材班キャップ
1981年（昭和56年）国家公務員研修所講師（2002年まで断続的に。なおこのころより現在に至るまで，北海道から沖縄まで全国各地の自治体で公務員倫理研修の講師を務める）
1981年（昭和56年）論説委員（教育，航空，社会担当）
1990年（平成2年）毎日新聞社退社。駿河台大学経済学部教授
1992年（平成4年）駿河台大学企画広報委員長（併任）（2002年まで）
1993年（平成3年）国民教育文化総合研究所研究会議議長（1997年まで）
1994年（平成6年）駿河台大学文化情報学部教授
1995年（平成7年）千葉県個人情報保護審議会委員
1998年（平成10年）駿河台大学文化情報学研究所長（併任）（2004年まで）
1999年（平成11年）駿河台大学大学院文化情報学研究科教授（併任）
2001年（平成13年）同研究科長（併任）（2005年まで）
2003年（平成15年）千葉県個人情報保護審議会会長（現在に至る）
2005年（平成17年）駿河台大学定年退職。名誉教授。大学院客員教授

〔研究業績〕

研究者と異なり，系統的な研究業績はほとんどない。新聞記者と大学教授の生活を通じ，書いたもの，話したことは多い。大部分は未整理のまま保存している。今回の原稿締め切りまでには，単行本をのぞき全部を整理することはできなかった。

単行本以外では，新聞の執筆記事と社説がそれぞれ約500本と推定される。雑誌の記事は大小様々で，やはり700ないし800本になる。内容は，教育関係，事件関係，古代史など文化に関するものに大別される。ここには，整理が済んだ約600本のうち，リスト化できたものと，国会図書館のホームページで検索した分と併せ，約450本を掲載する。

【単行本】

単著

新聞社を退社直前になって、ようやく執筆の時間が持てるようになった。臨教審には論説委員としてさまざまな形で関わった。政治部と社会部の後輩記者の協力で、最初の単独著書として刊行した。公務員倫理は1980年から人事院などでの研修を行ってきた。公務員倫理について書かれた最初の本である。オーケストラの本は、中高校生を対象としたちくまプリマーブックスの一冊で、学校図書館協議会の推薦図書になり、ハードカバーで全国の学校図書館に納本された。東大オケでのトロンボーンの先生を軸に書いたN響のドキュメンタリーである。すでに絶版だが、インターネットではいまでも多くの人が取上げている。大学に移ってからの単著は、公務員倫理を書き直したものだけである。

- 1 臨教審と教育改革 三一書房 1988. 1
- 2 公務員倫理 ぎょうせい 1989. 1
- 3 教育激動の構図'80年代 国土社 1989. 5
- 4 オーケストラの人びと 筑摩書房 1989. 11
- 5 「日本一先生」は語る 大村はま・原田三朗 国土社, 1990. 2
- 6 新・公務員倫理 ぎょうせい 1999. 3

【編共著】

毎日新聞では1979年から教育取材班のキャップを務めた。全国から記者を集め、テーマを決めて定期的に企画記事をつくった。それに加筆して単行本にまとめ、毎日新聞から刊行したのが多い。いずれも私が原稿を見て、構成を考え、あとがきを書いている。私自身が一部を書いているものも多い。毎日以外でも書き下ろしを教育取材班の名前で出したものもある。大学に移ってからは、私が編者となってメディア倫理や文化情報学など同僚教員とともに執筆した本がほとんどである。なお、毎日新聞から出した「人間と海」は1975年の沖縄海洋博企画のシンポジウムの記録を、私が実質的な編者になって、一般向けに整理したもの。竹筏ヤム号漂流記は、漂流した記者の原稿などを私が編者となってまとめた。教育総討論は、私が責任者となって討論者を委嘱し、整理し、単行本にまとめた。

- 1 教室産業 毎日新聞社 1981
- 2 内申書・偏差値の秘密 毎日新聞社 1981
- 3 つくられる「良い子」たち 毎日新聞社 1981
- 4 教科書検定 毎日新聞社 1982
- 5 わかってよ ぼくら小学生 毎日新聞社 1981
- 6 思春期病 1981 毎日新聞社
- 7 忘れられた子供たち 毎日新聞社 1981
- 8 校内暴力の底流 毎日新聞社 1982
- 9 なぜ死ぬの 毎日新聞社 1982
- 10 若い先生 毎日新聞社 1982
- 11 大学入試の内幕 毎日新聞社 1982
- 12 かわる高校 毎日新聞社 1983
- 13 「非行」を超える 毎日新聞社 1984
- 14 教室の冒険 毎日新聞社 1984
- 15 登校拒否の子 毎日新聞社 1984

- 16 教育改革・現場の試み 毎日新聞社 1985
- 17 教育改革・私の視点 毎日新聞社 1985
- 18 日本の教育風土 毎日新聞社 1986
- 19 見えなくなった子どもたち 毎日新聞社 1987
- 20 教科書戦争 教育取材班 三一書房 1981
- 21 いじめの構造 教育取材班 創文 1983
- 22 教育を追う・総討論 毎日新聞社 1977年
- 23 人間と海 毎日新聞社 1976年
- 24 竹筏ヤム号漂流記 毎日新聞社 1977年
- 25 情報の法と倫理 原田三朗・和田英夫・鳥井壮行 北樹出版 1999
- 26 文化情報学 安澤秀一・原田三朗 北樹出版 2002
- 27 新・情報の法と倫理 原田三朗・日笠完治・鳥居壮行 北樹出版 2003

【共著】

単行本の一部を執筆したが私の編著ではないものを集めた。私が書いた章のタイトル、書名、編者、出版社、出版年の順に表示してある。「激論・ニッポンの教育」は「知的生産の技術」研究会とともに企画したもので、小田実、小室直樹、木田宏、黒羽亮一ら7名の討論者の一人として、討論記録をもとに執筆している。

- 1 「密輸決済の金融組織」 アジア犯罪基地 稲野治兵衛 毎日新聞社 1966年
- 2 「マンガを読んで革命をしよう」 安保・激動のこの10年 毎日新聞安保学生班 文藝春秋 1969
- 3 「大学としての東大法学部」 東大法学部 小中陽太郎 現代評論社 1978
- 4 「公務員」「外食産業」「大学と就職」「転職考」 就職 小中陽太郎 現代評論社 1980年
- 5 激論・ニッポンの教育「知的生産の技術」 研究会編 講談社 1981年
- 6 「取材・報道の法と倫理」 ジャーナリズムを学ぶ人のために 田村紀雄他 世界思想社 1993
- 7 「取材・報道の法と倫理」 新版ジャーナリズムを学ぶ人のために 田村紀雄他 世界思想社 1999
- 8 「メディアと教育」 教育の未来をつくる 国民教育文化総合研究所 明石書店 1996

【監修】

国民教育文化総合研究所で企画したシリーズで、日高六郎らと3名の監修者の一人である。第3巻の「教育の未来をつくる」(再掲)では、共著者でもあった。

- 1 新しい学校像の探求 国民教育文化総合研究所 明石書店 1996
- 2 共生・共育を求めて 国民教育文化総合研究所 明石書店 1996
- 3 教育の未来をつくる 国民教育文化総合研究所 明石書店 1996

【その他】

単行本にはさまざまな形で関与したものが多い。次はその一つで、毎日新聞創刊100年の企画で、「日本および日本人」をテーマに世界から賞金各100万円で論文を募集した。512編の応募論文から10編を選とし、入選者を日本に招待した。これは、入選論文を翻訳し刊行したものであるものである。私の編著にいらしてもよかったのだが、翻訳を担当していることから、その他とした。

- 1 アレグレ「日本の近代化とその限界」／ドハーティ「表象の文明」／サミュエルズ「現代日本の政

「治文化」 日本および日本人 毎日新聞社 1952年

【雑誌論文・寄稿のうち国会図書館の雑誌記事索引 収録分】

整理する時間がないので、国会図書館の索引をまず利用させてもらった。書式もリライトする余裕がなく、執筆者の名前を削っただけで（全部私の名前だから）インターネットからペーストしたそのままである。

- 1 〔駿河台大学〕文化情報学部の創世記（國分信教授 退職記念号〔駿河台大学〕文化情報学部創設10周年記念号）—（〔駿河台大学〕文化情報学部10周年に当たって）／文化情報学. 10(2) [2003. 12]
- 2 アメリカ連邦公務員制度の概要—連邦公務員制度の現状と課題（特集 公務労働の 現状と未来(上) 先進四カ国の公務員制度の現状と課題）／世界の労働. 53(3) [2003. 3]
- 3 公務員倫理に関する座談会（特集 公務員倫理—国家公務員倫理法施行後1年を経過して）／青山佳世；立石信雄；原田三朗他／人事院月報. 54(8) (通号 623) [2001. 8]
- 4 これからの地方公務員の服務と倫理（特集 21世紀の地方自治を展望する(3)地方公務員）／月刊自治フォーラム. (497) [2001. 2]
- 5 あっせん利得処罰法と公務員倫理／晨. 20(2) (通号 220) [2001. 2]
- 6 余計なお世話教育改革国民会議（特集 教育改革国民会議を問う）／季刊教育法. (127) [2000. 12]
- 7 自治体職員に求められる公務員倫理／Gyosei EX. 12(5) [2000. 05]
- 8 解説 これからの情報公開に必要な新しい視点（特集 住民参加のための新しい情報公開）／月刊自治フォーラム. (通号 485) [2000. 02]
- 9 21世紀の地方公務員倫理（特集 21世紀の地方公務員倫理）／晨. 19(1) (通号207) [2000. 01]
- 10 課題研究 21世紀の高等教育政策—21世紀の高等教育政策（ナショナルリズムと教育政策）—（〔日本教育政策学会〕第6回大会報告）／日本教育政策学会年報. (7) [2000]
- 11 ジャーナリストには専門教育と現場研修を—多メディア時代に合わせて内容も検討／新聞研究. (通号 579) [1999. 10]
- 12 大学にとっての社会人教員（今月のテーマ 社会人教員）／IDE. (通号411) [1999. 09]
- 13 天職としての公務員／人事院月報. 51(1) [1998. 01]
- 14 橋本行革の“人事院潰し”を許してはならない／エコノミスト. 75(49) [1997. 11. 11]
- 15 教育総研レポート22 —学校教育の今日的課題—「第5回教育総研夏季研究集会」から—第2部／教育評論. (通号585) [1996. 02]
- 16 教育総研レポート21 学校教育の今日的課題—「第5回教育総研夏季研究集会」から／教育評論. (通号584) [1996. 01]
- 17 国際理解教育と日の丸・君が代（日の丸・君が代の指導(特集)）／季刊教育法. (通号87) [1992. 03]
- 18 ここが違う！名人の授業—大村はま（おもしろがらせる授業〈特集〉）／児童心理. 44(9) [1990. 07]
- 19 問題多いホラービデオ規制／新聞研究. (通号460) [1989. 11]
- 20 猫の目入試改革—なぜ？（文部省—残された中曽根路線〈特集〉）／世界. (通号 534) [1989. 11]
- 21 衛星放送「料金」の合理、不合理（情報・メディアの「値段」考〈特集〉）／総合ジャーナリズム研究. 26(3) [1989. 07]
- 22 論説委員座談会＝日教組運動を展望する—もっとしなやかに、わかりやすく（21世紀に日教組は〈500号記念特集〉）／原田三期 他／教育評論. (通号500) [1989. 02]
- 23 教育活動と学校図書館（学校図書館に期待する〈特集〉）／学校図書館. (通号459) [1989. 01]

- 24 新設ラッシュ「国際学部」の表と裏（大学の新潮流〈特集〉）／知識。（通号81）[1988. 09]
- 25 臨教審とは何だったのか—教育改革幻想の終わりと始まり／エコノミスト. 65(38) [1987. 09. 08]
- 26 教育 文部官僚の掌の上で—幻に終わった教育改革（ハンドブック 中曽根政治〈創刊500号記念特集〉）—（中曽根政権は何をなしたか）／世界。（通号500）[1987. 04]
- 27 いま、公務員倫理を問う／人事院月報. 40(3) [1987. 03]
- 28 教育問題—「教育を追う」2500回の軌跡（「部際取材」の現状と課題）／新聞研究.（通号425）[1986. 12]
- 29 臨教審の改革論議の行方と教職員に望むもの（教育改革—臨教審にはたのまない〈特集〉）／対談 西村秀俊；対談 原田三朗 教育評論.（通号472）[1986. 10]
- 30 漂流続ける臨教審—「会議室」からの教育改革はムリ／エコノミスト. 64(12) [1986. 03. 18]
- 31 日本の教育改革風土（教育改革の地平〈特集〉）／理想.（通号624）[1985. 05]
- 32 手紙・教育改革をになう教師たちへ（教育改革と教師たち〈特集〉）／原田三朗 他 教育評論.（通号451）[1985. 01]
- 33 教育改革を考える〈シンポジウム〉／稲葉三千男；原田三朗；保坂展人 月刊総評.（通号324）[1984. 12]
- 34 臨教審のねらいとその将来（教育改革論議と臨教審〈特集〉）／ジュリスト.（通号825）[1984. 11. 15]
- 35 現場を調査し、抽象論議をやめて（「日本の教育を考えるシンポジウム」から）—（教育改革／各界からの提言）／教育評論.（通号448）[1984. 10]
- 36 どこへ行こうとするのか臨教審（臨教審・教育改革の今後〈特集〉）／季刊教育法.（通号53）[1984. 10]
- 37 教育改革運動をめぐって（国民参加の教育改革を〈特集〉）／対談 原田三朗；対談 橋口和子 教育評論.（通号445）[1984. 07]
- 38 “教育臨調”路線と大学—何を問題にすべきか（大学生諸君!?!—いま、大学をレポートする）／世界.（通号463）[1984. 06]
- 39 教育改革と報道の役割—「教育を追う」の七年間から／新聞研究.（通号393）[1984. 04]
- 40 教育改革の方向を問う／季刊教育法.（通号51）[1984. 04]
- 41 教育は死んだか—記者の見た学校教育の現状（「教育」を問う）／座談会 原田三朗 他 理想.（通号611）[1984. 04]
- 42 日教組に思うこと（日教組運動への期待〈特集〉）／教育評論.（通号435・436）[1983. 10]
- 43 何が教室を息苦しくさせているか—研修、指導要領、カリキュラム、そして（教師の暴力—なぜ？〈特集〉）／世界.（通号454）[1983. 09]
- 44 「共通一次」のいま（曲がり角にきた共通一次（今日の焦点））／季刊教育法.（通号48）[1983. 07]
- 45 倫理研修をどのように進めるか／人事院月報. 36(2) [1983. 02]
- 46 文教—ファシズムを生む教育政策（ただいま、日本の無理難題〈特集〉）／現代の眼. 24(1)[1983. 01]
- 47 教科書報道を支えるもの（教科書問題と新聞報道）／新聞研究.（通号377）[1982. 12]
- 48 戦後文部行政の軌跡（文部省—いま、改革のとき〈特集〉）／世界.（通号444）[1982. 11]
- 49 「侵略が進出に」を枕言葉に使ったことはあっても誤報はしていません（やはり教科書は利用されていた！〈特集〉）—（三大紙・NHK編集幹部に訊く—朝・毎・読・NHK「誤報」を糺す！）／インタビュー 原田三朗；インタビュー 俵孝太郎 諸君. 14(11) [1982. 11]
- 50 教科書調査官の“検定基準”（むき出された〈帝国〉への野望—教科書問題を別る〈特集〉）—（教科書の作られ方・使われ方）／現代の眼. 23(11) [1982. 11]

- 51 日教組大会と集会の自由の危機／新聞研究. (通号374) [1982. 09]
- 52 文部省と家永三郎—歴史の法廷に立つリベラリスト (巨大集団に挑む一匹狼たちの情念〈特集〉)／現代の眼. 23(7) [1982. 07]
- 53 教育を避けた最高裁判決 (教科書・その真実と民主主義を—最高裁判決をうけて〈特集〉)／国民教育. (通号53) [1982. 07]
- 54 公務員・安定志向の光と影 (就職読本—新たな人生への出立) — ('83年企業戦線を直撃する—優良業種を狙え)／現代の眼. (通号 別冊) [1982. 05]
- 55 古代史ブームのヒーローたち (古代史の疑問—日本人と天皇のルーツ)／現代の眼. 23(1)[1982. 01]
- 56 大学行政・一五年の惨憺—大学はどこへ行く (“筑波化”で揺れる日本の大学〈特集〉)／現代の眼. 22(12) [1981. 12]
- 57 教科書信仰がもたらす絶望的状况 (教科書問題〈特集〉) — (教科書問題・私の視点)／季刊教育法. (通号 41) [1981. 10]
- 58 学歴を買う人々—現代「親子鷹」事情 (若者を刈り取る日本の欲望最前線〈特集〉)／現代の眼. 22(7) [1981. 07]
- 59 受験でだれが得をしたのか (受験〈主題〉)／思想の科学. 第6次. (通号126) [1981. 01]
- 60 学界に若き復権はあるか (若朽 (じゃっきゅう) の世代〈特集〉)／潮. (通号256) [1980. 09]
- 61 子どもたちはよい教科書を奪われた—進む寡占化の憂うべき現実／エコノミスト. 58(5) [1980. 02. 05]
- 62 アンデスの国の子どもたち—コロンビアとエクアドルの教育現場／季刊教育法. (通号33) [1979. 10]
- 63 新段階迎えた主任制度問題／インタビュー 諸沢正道；インタビュー 槇枝元文；インタビュー 原田三朗 季刊教育法. (通号27) [1978. 04]
- 64 私大の値上げラッシュ—だが盛り上がりぬ反対闘争／エコノミスト. 56(10) [1978. 03. 14]
- 65 古代史論争〈権威〉喪失の時代の争鳴 (戦後論争盛衰史〈特集〉) — (現代論壇話題考)／現代の眼. 18(12) [1977. 12]
- 66 教育における国際性 (直言ノート)／季刊教育法. (通号26) [1977. 12]
- 67 国公立入試 (共通一次) 批判 (直言ノート)／季刊教育法. (通号25) [1977. 10]
- 68 要田中事件にみる学校の病理 (直言ノート)／季刊教育法. (通号24) [1977. 07]
- 69 内申書不用論／季刊教育法. (通号22) [1976. 12]
- 70 学校と地域社会—学区の紛争をめぐって (直言ノート)／季刊教育法. (通号20) [1976. 07]
- 71 “社会部的”から踏み出す (社会部) (新聞記者読本) — (取材記者論)／新聞研究. (通号296) [1976. 03]
- 72 “教育の常識”といかに闘うか (直言ノート)／季刊教育法. (通号18) [1975. 12]
- 73 “教育とカネ”の発想を変えよ (直言ノート)／季刊教育法. (通号17) [1975. 10]
- 74 中教審答申はどうなったのか (直言ノート)／季刊教育法. (通号16) [1975. 06]
- 75 大学の荒廃は救えるか／季刊教育法. (通号15) [1975. 03]
- 76 さまよえる中教審答申の行方—説得力の欠如が命取りにも／エコノミスト. 49(25) [1971. 06. 22]
- 77 羽田は国際空港から脱落する！—政策不在のパンク宣言／エコノミスト. 48(41) [1970. 09. 29]

【雑誌論文等で未整理のものも多く残っているが、これまでに整理済みのもののうち、国会図書館の記録に含まれていないものを掲載する。整理ミスでダブりがあり、削除した部分もある】

- 1 「犯人自殺直前の問答」 サンデー毎日 60年11月号
- 2 「ただいま留学中」(1～10連載) 留学と会話 66年12月～67年
- 3 「成田・代執行と農民たち」 現代の視点 71年2号
- 4 「ルバング通信テンマツ記」 現代の視点 72年11号
- 5 Co-existence of Contradictions, The Japanese People and Culture” Technocrat vol6 no3 march 1973 Fuji Marketing Research Co., Ltd.
- 6 「ポーツマス—世界のポートシティ」 Shipping and Trade News 82年3月
- 7 「ミンダナオ記者にも言わせてほしい」 月刊噂 73年10号
- 8 「新聞記者の競争と協調」 マスコミ市民 73年11月号
- 9 「東京大学総長論」(木下弘の筆名で) 月刊エコノミスト 73年5月号
- 10 「幻の記者コンミュン」 調査情報 73年6月号
- 11 「入試改革と高校の体質改善」 高校教育 74年6月号
- 12 「音よりも速く」 留学と会話 75年12号
- 13 「国公立入試(共通一次)批判 教育法 75年18号
- 14 「アラブの旅」 留学と会話 75年8号
- 15 「古代史研究における疑似論理」 古代文化 75年早春
- 16 「音よりも速く」 留学と会話 76年12月号
- 17 「学校と地域社会」 教育法 76年20号
- 18 「開かれた社会のための教育と日本の教育」 国際教育 77年44号
- 19 「稲毛屋 中央集中処理を武器に大きく躍進」 New Life Industries 79年4月号
- 20 「大学入試は沈静化したか！」 進研ニュース 80年73号
- 21 「現実のニュースが追いかけてくる教育報道」 SPACE 81年5月号
- 22 「教科書問題をめぐって」 キャリアガイダンス 82年10号
- 23 「共通一次試験が生まれるまで」 現代教育実践文庫 82年12月号
- 24 「古代史ブームのヒーローたち」 現代の眼 82年1月号
- 25 「中教審の権威ということ」 学校経営 82年1号
- 26 「1981年教育界を振り返る」 キャリアガイダンス 82年1号
- 27 「学校観をめぐる混乱」 コミュニティ—80レター 82年23号
- 28 「公務員倫理を考える」 季刊人事行政 82年2月号
- 29 「私大入試を展望する」 毎日セミナー通信 82年3号
- 30 「都立高校入試改革の功罪」 キャリアガイダンス 82年5号
- 31 「教科書と最高裁」 キャリアガイダンス 82年6号
- 32 「教育裁判の限界」 キャリアガイダンス 82年7号
- 33 「転機の日教祖大会」 キャリアガイダンス 82年8号
- 34 「〈記者座談会〉昭和60年度からの大学入試」 進研ニュース 83年105号
- 35 「昭和60年度からの大学入試」 進研ニュース 83年105号
- 36 「選別の強まる私大補助」 キャリアガイダンス 83年10号
- 37 「偏差値教育の毒が回った」 月刊サーチ 1983年6月

- 38 「61年度からの高等教育」 キャリア ガイダンス 83年12月号
- 39 「音楽教育の改革と創造性の発達」 発達 83年14号
- 40 「六・三制見直しの方向」 桜門春秋 83年17号
- 41 「日教祖教研の悩める教師たち」 キャリアガイダンス 83年2, 3合併号
- 42 「なぜ後退する二次試験の改革」 進ゼミ情報 83年26号
- 43 「200万人の若者はどこへ行く」 キャリアガイダンス 83年4号
- 44 「入試制度と進路指導」 教職研修 83年5月号
- 45 「学警協力の卒業式」 キャリア ガイダンス 83年5月号
- 46 「何のための出席停止処分」 キャリアガイダンス 83年7号
- 47 「共通一次のゆくえ」 月刊コミュニケーション 83年7号
- 48 「日教祖に思うこと」 教育評論 83年9—10号
- 49 「オランダの音楽教育事情」 アムステルダム管弦楽団カタログ 84年
- 50 「臨教審のねらいとその将来」 ジュリスト 84年11月号
- 51 「大卒就職事情の裏側」 官公労働 84年11月号
- 52 「急増の大検合格者」 キャリア ガイダンス 84年12月号
- 53 「教育改革と学校現場」 キャリア ガイダンス 84年1月号
- 54 「教員の「資質」について」 学校経営 84年1月号
- 55 「大胆な独自性の発揮排除を」 関西教授会連合 84年1月号
- 56 「教育改革と学校現場」 キャリア ガイダンス 84年1月号
- 57 「教員の「資質」について」 学校経営 84年1月号
- 58 「84年の教育界を読む」 キャリアガイダンス 84年2, 3合併号
- 59 「教育養成制度の改革の方向」 進ゼミエコール 84年30号
- 60 「共通一次と教育改革」 学校経営 84年3月号
- 61 「教育改革と報道の役割」 新聞研究 84年4月号
- 62 「“教育臨調”の舞台裏」 キャリア ガイダンス 84年4月号
- 63 「臨教審法案の国会上程」 キャリアガイダンス 84年5号
- 64 「少女雑誌の規制と表現の自由」 青少年問題研究 84年7月号
- 65 「受け身でない文化行政」 晨 84年7月号
- 66 「初めての「私大白書」」 キャリア ガイダンス 84年7月号
- 67 「高等教育計画への疑問」 学校経営 84年7月号
- 68 「初めての「私大白書」」 キャリア ガイダンス 84年7月号
- 69 「高等教育計画への疑問」 学校経営 84年7月号
- 70 「18年ぶりの高校入試改善」 キャリア ガイダンス 84年8月号
- 71 「スタートする臨教審」 キャリア ガイダンス 84年9月号
- 72 「臨教審の発足と今後の課題」 教職研修 84年9月号
- 73 「スタートする臨教審」 キャリア ガイダンス 84年9月号
- 74 「臨教審の発足と今後の課題」 教職研修 84年9月号
- 75 「スタートする臨教審」 キャリア ガイダンス 84年9月号
- 76 「臨教審の発足と今後の課題」 教職研修 84年9月号
- 77 「中曽根首相への白紙委任状」 学校経営 84年9月号

- 78 「『日の丸』と教育改革」 キャリア ガイダンス 85年10月号
- 79 「臨教審の中間発表と高等教育の将来」 事務職員研修講演記録 85年10月号
- 80 「教科書の中のエネルギー」 エネルギーレビュー 85年10号
- 81 「いまさらのいじめ対策」 キャリア ガイダンス 85年11月号
- 82 「教師とコモンセンス」 悠 85年11月号
- 83 「教育課程審議会の発足とその行方」 学習指導研修 85年11月号
- 84 「高学歴は就職に有利」 キャリア ガイダンス 85年12月号
- 85 「戦後教育40年とわたしの教育改革」 総合教育技術 85年1月号
- 86 「戦後教育40年とわたしの教育改革」 総合教育技術 85年1月号
- 87 「青少年読書感想文全国コンクール30年を迎えて」 学校図書館 85年2号
- 88 「中野区議会の四年間」 地方自治職員研修 85年3月号
- 89 「臨教審・科学万博・共通一次」 キャリア ガイダンス 85年4月号
- 90 「教育改革の主体はだれか」 学校図書館 85年4月号
- 91 「学校の権威主義」 キャリア ガイダンス 85年5月号
- 92 「ボタンをかけた違った臨教審」 キャリア ガイダンス 85年6月号
- 93 「臨教審「審議経過の概要」について考える」 学習指導研修 85年6月号
- 94 「少女雑誌規制と表現の自由」 青少年問題研究 85年7号
- 95 「生煮えの第1次答申」 キャリア ガイダンス 85年8月号
- 96 「もっと自由を」 キャリア ガイダンス 85年9月号
- 97 「高等教育の動向と私立大学」 管理職研修報告書 86年
- 98 「人事抗争で揺れる日教祖」 キャリア ガイダンス 86年10月号
- 99 「総合的な教育課程の検討が必要」 学習指導研修 86年10号
- 100 「どちらを向いての改革か」 キャリア ガイダンス 86年11月号
- 101 「丸刈り判決と校則の違法性」 キャリア ガイダンス 86年1月号
- 102 「臨教審の500日」 記録ジャーナル 86年1月号
- 103 「60年度の教育ニュース総括」 キャリア ガイダンス 86年2・3号
- 104 「子どもの個性と学校の個性」 the wheel extended 86年3号
- 105 「学費は高すぎる」 キャリア ガイダンス 86年4月号
- 106 「座談会：いじめ問題とジャーナリズム」 新聞研究 86年5月号
- 107 「大学入試は改革期に入る」 キャリア ガイダンス 86年5月号
- 108 「教育改革は提言ラッシュ」 キャリア ガイダンス 86年6月号
- 109 「教育の断面」 教職研修 86年7月号
- 110 「経験に学ばない愚かしさ」 キャリアガイダンス 86年7号
- 111 「教育の断面〈いま求められている“高校像”〉」 教職研修 86年8月号
- 112 「理念なきスケジュール改定」 学習指導研修 86年8号
- 113 「焦点は社会科改編」 キャリアガイダンス 86年8号
- 114 「藤尾文相登場の意味」 キャリア ガイダンス 86年9月号
- 115 「改定の理念はどこにあるのか」 学習指導研修 86年9号
- 116 「学校教育の今日的課題」 高管教第3回教研 87年
- 117 「高等教育の動向と私立大学」 商学部研修会報告書 87年

- 118 「ソ連の教育改革の印象」 学校経営 87年11月号
- 119 「日教組は慧くあれ」 発言 87年14号
- 120 「延期された大学入試新テスト」 キャリア ガイダンス 87年1月号
- 121 「学校をどうしようというのか」 月刊高校教育 87年1号
- 122 「いま、私立大学を問い直す(上)」 私学時代 87年1号
- 123 「いま、私学教育を問い直す(下)」 私学時代 87年2号
- 124 「日本の教育に見習えの意味」 学校経営 87年3号
- 125 「文部官僚の掌の上で」 世界 87年4月号
- 126 「臨時教育審議会第3次答申を読んで」 みんなで教育改革を 87年5月11号
- 127 「最終ラウンドに入った臨教審」 学校経営 87年5月号
- 128 「大学教授たちのわがまま」 学校経営 87年7号
- 129 「新教育課程を踏まえて学習のあり方を探る」 学園随筆 87年8号
- 130 The Character of Children and Character of Schools JAPAN UPDATE 87年夏号No.4
- 131 「日本人のためだけでない学校とは」 学校経営 87年9月号
- 132 「私学経営の問題とこれからの課題」 幹部管理職研修講座講演録 88年
- 133 「文部省を総点検する」 私学時代 88年10号
- 134 「絶望的な大学の入試改革」 学校経営 88年11号
- 135 「文部省を総点検する①」 私学時代 88年10号
- 136 「文部省を総点検する③」 私学時代 88年12号
- 137 「納得しがたい教課審の態度」 学校経営 88年1号
- 138 「柔軟な発想を求めよ」 教職研究 88年1号
- 139 「秋季入学制をどう実現するか」 月刊高校教育 88年1号
- 140 「1988年の教育界を展望する」 キャリアガイダンス 88年2, 3合併号
- 141 「教育の断面〈見えない改革の全体像〉」 教職研修 88年2月号
- 142 「アメリカの小さな大学」 学校経営 88年3号
- 143 「新テストと私立大学」 私学時代 88年5号
- 144 「生涯学習時代と大学」 大学世界 88年78号
- 145 「初任者研修制度を役立てるには」 学校経営 88年7号
- 146 「見失われた日教組運動の理想」 学校経営 88年9月号
- 147 「問われる高等教育のあり方」 学園随筆 88年9号
- 148 「文部省を総点検する②」 私学時代 88年11号
- 149 「学校として「すべきではない」こととは」 学校経営 88年5月号
- 150 「これからの大学」 業務別研修報告書—教務関係— 89年
- 151 人脈 ガロとその時代 毎日新聞朝刊連載 89年
- 152 わが国における衛星放送の将来展望 駿河台大学 論叢 89年
- 153 「公務員倫理の高揚に必要なこと」 季刊行政研修 いるま 89年10月号
- 154 「変化する社会に対応して」 社会労働評論 89年10月号
- 155 「猫の目入試改革—なぜ?」 世界 89年11月号
- 156 「スポーツ振興と生涯学習社会」 学校経営 89年11月号
- 157 「文部省を総点検する⑩」 私学時代 89年11号

- 158 「衛星放送「料金」の合理, 不合理」総合ジャーナリズム研究 89年129号
- 159 「新学期指導要領を語る(上)」学園随筆 89年1月号
- 160 「教育活動と学校図書館」学校図書館 89年1号
- 161 「文部省を総点検する④」私学時代 89年1号
- 162 「時代を誤った学習指導要領」発言 89年21号
- 163 「汚職とモラルの間を考えよう」総研ジャーナル 89年36号
- 164 「マスコミの大学拡張論」大学時報 89年38号
- 165 「共通一次を総括する」学校経営 89年3号
- 166 「コミュニケーションと遠隔教育」放送教育開発センター研究報告 遠隔高等教育の現状と展望
89年5月07号
- 167 「文部省を総点検する 番外編」私学時代 89年5号
- 168 「文部省を総点検する7」私学時代 89年6号
- 169 「コミュニケーション論からの大学入試改革批判」月刊高校教育 89年7月号
- 170 「文部省を総点検する⑧」私学時代 89年7号
- 171 「教育の断面〈一芸入試の落とし穴〉」教職研修 89年7月号
- 172 「教育の断面〈教科書離れを考えたい〉」教職研修 89年8月号
- 173 「教育の断面〈学校の内部にすすむ腐蝕〉」教職研修 89年9月号
- 174 「分裂を控えた日教組の全国教研」学校経営 89年9号
- 175 「わが国における衛星放送の将来展望」駿河台大学論叢 89年第3号
- 176 「文部省を総点検する⑩」私学時代 89年10号
- 177 「文部省を総点検する⑤」私学時代 89年2号
- 178 「再開した中教審の行方」学校経営 89年7月号
- 179 「大学の個性化と評価」私学経営 89年9月175号
- 180 「どこまでいくの??おばけ偏差値」“どうなってるの今の教育”立川市錦公民館 90年
- 181 「なぜなくならぬ中学と高校入試の難問」学校経営 90年11号
- 182 「私学の危機とは何か」私学経営 90年190号
- 183 「女子体操選手の悲運と学校の人権感覚」学校経営 90年1月号
- 184 「個性豊かな特色ある教育を」私学時代 90年1号
- 185 座談会「高等教育のあり方を考える」学園随筆 90年28巻
- 186 「生涯学習振興法案と大学」私学経営 90年2月185号
- 187 「動き出す大学改革」学園随筆 90年7号
- 188 「過去の直視から開ける未来」学校経営 90年7号
- 189 「校門事故問題で欠落した視点」学校経営 90年9月号
- 190 「『伝習館訴訟』最高裁判判決の意味」学校経営 90年3月号
- 191 「対談:『生涯学習』その方向と体制」私学時代 90年4号
- 192 「到来した大量浪人時代」学校経営 90年5月号
- 193 「高校は出なくても」閲覧室 91年
- 194 「初中教育行政, 当面する問題」私学時代 91年10号
- 195 「学校五日制への視点」学校経営 91年11号
- 196 「エネルギーのムダを“紙”が解決」女性フォーラム 91年12月43号

- 197 「緒方さんのこと」 会報千代田フィル 91年16号
- 198 「入試監督のやるせない思い」 私学経営 91年195号
- 199 「学校教育にも地殻変動の予感がする」 学校経営 91年1月号
- 200 「中教審に広範な意見を」 学園随筆 91年29巻
- 201 「中教審は憂えている」 私学時代 91年2号
- 202 「日本の教育, 30年の歩み」 学園随筆 91年30巻
- 203 「受験戦争に傷つく若者たち」 学校経営 91年3月号
- 204 「新聞・雑誌をよく読む」 小学校教育 91年4月号
- 205 「ベネチアン・グラス」 季刊随筆丘 91年4号
- 206 「大学の教育責任と「温情卒業」」 学校経営 91年5月号
- 207 「入試監督のやるせない思い」 私学経営 91年5月号
- 208 「初中行政の当面する問題」 学園随筆 91年5号
- 209 「30年の流れと今日の課題」 私学時代 91年5号
- 210 「有名大学の無責任」 学校経営 91年7号
- 211 取材記者の職業倫理についての試論 駿河台大学論叢第6号 92年
- 212 「ヨーロッパ統合の夢ECとは何か」 ADVANCE 92年11月号
- 213 「教職員の生涯福祉を考えよう」 私学時代 92年12号
- 214 「理科教育及び産業教育審議会答申」 教職研修 92年12月号
- 215 「電気を貯める」 女性フォーラム 92年1月号
- 216 「大学の成績簿」 学校経営 92年1月号
- 217 「公務員倫理と管理者のあり方」 研修 92年1月号
- 218 「高等教育の改革に望むもの」 私学時代 92年1号
- 219 「大学の自己評価」 私学経営 92年3月205号
- 220 「水素の利用」 女性フォーラム 92年3月45号
- 221 「センター試験と高校中退」 学校経営 92年3号
- 222 「ガロ編集長の引退」 学校経営 92年5月号
- 223 「高等教育改革に期待するもの」 私学時代 92年5号
- 224 「教育の断面 学校5日制の検討に不足するもの」 教職研修 92年7月号
- 225 「「登校」は拒否したい」 学校経営 92年7月号
- 226 「地球サミットの重い意味」 ADVANCE 92年7月号
- 227 「学校教育を考える機会に」 学園随筆 92年8号
- 228 「PKOとは何か」 ADVANCE 92年9月号
- 229 「取材記者の職業倫理についての試論」 駿河台大学 論叢92年第6号
- 230 「「登校拒否」対策と学校の役割」 学校経営 92年11月号
- 231 「業者テストと私立学校の責任」 学校経営 92年12月号
- 232 「私学への公財政支出の増額を」 私学時代 92年7号
- 233 「大学教育と高校教育の動向」 私学時代 92年8号
- 234 「体罰の後遺症はないのか」 学校経営 92年9月号
- 235 「業者テスト廃止は何を示唆するか」 学校運営研究 93年10号
- 236 「新しい学力観への疑問」 総合教育技術 93年10号

- 237 「推薦入学の制限に意義あり」 私学経営 93年11月号
- 238 「学校五日制に関する調査研究協力者会議報告」 別冊教職研修 93年12月号
- 239 「学力向上運動の改革を考えよう」 学校経営 93年12月号
- 240 「大学の個性化と評価」 活性化と教員人事」 私学経営 93年2月号
- 241 「教師のモラルをいかに高めるか」 学校経営 93年5号
- 242 「教育の断面〈なぜ学校が悪くなる〉」 教職研修 93年7月号
- 243 「『学校の倫理』を知る必要がある」 学校経営 93年2月号
- 244 「指導要録を開示しますか」 学校経営 93年4月号
- 245 「大学、競争力強める改革を」 私学時代 93年5号
- 246 「学校改革の視点を考える」 学校経営 93年6月号
- 247 「対談：大学間に自由競争の原理を」 私学時代 93年6号
- 248 「『問題教師』の問題を考える」 学校経営 93年8月号
- 249 「『日本一先生』は語る」 日本の教師 94年
- 250 「差別語論争」 教職研修 94年11月増刊号
- 251 「教育・研究水準の向上へ」 私学時代 94年12号
- 252 「大学はどこへいくのか」 菩提樹 94年13号
- 253 「三ない運動からの転換」 学校経営 94年2月号
- 254 「高校間の格差をどう是正するか」 学校経営 94年4月号
- 255 「対談：助成に「パウチャー」構想も」 私学時代 94年5号
- 256 「なぜ若者が幼いのか」 学校経営 94年6号
- 257 「『教育改革』をどう改革するか」 教育総研ニュース 94年7月号
- 258 「職業教育の強化を望む」 学校経営 94年8月号
- 259 「戦後50年と教育を考える」 学校経営 94年10月号
- 260 「旧制高校の消える日」 学校経営 94年12月号
- 261 「対談：教育・研究水準の向上へ」 私学時代 94年12号
- 262 「就職難と大学の将来」 私学経営 94年9月235号
- 263 「質的、量的の充実・拡大と先見性ある構想の開発を望む」 私学時代 95年11月号
- 264 「公務員の使命と社会的責任」 研修 95年9月207号
- 265 「大学入試改革のささやかな実践」 私学経営 95年9月号
- 266 「対談：新しい大学院の方向と問題点」 私学時代 95年11号
- 267 「対談：牛山純一：テレビ・ドキュメンタリーの現在と未来」 教育と文化 95年1号
- 268 「子どもの墓標を作らぬために」 学校経営 95年2月号
- 269 「現代の行政と公務員倫理」 公務研修 95年7月178号
- 270 「大学の独り相撲」 人事試験研究 96年12月号
- 271 「中教審第一次答申」 別冊教職研修 96年12月号
- 272 「学校教育の今日的課題」 教育評論 96年1月号
- 273 「公務員のあり方を考える研修の印象」 行政研修ジャーナル 96年25号
- 274 「公務員の倫理と社会的責任」 研修だより 96年3月42号
- 275 「モラルの高い職場づくりに向けて」 研修だより 96年3月号
- 276 中教審と21世紀の学校像（中身はついていない） 教育と文化 96年4号

- 277 「対談：横山英一：パートナーシップ路線の舵を取って」 教育と文化 96年4号
- 278 「教育改革と大学の責任」 私学経営 96年10月260号
- 279 パネル「子どもの権利は保障されているか」 教育評論 96年2月585号
- 280 対談：肥田美代子「子ども図書館の夢を」 教育と文化 96年2号
- 281 「対談：斎藤諦淳：臨教審の十年をふりかえる」 教育と文化 96年3号
- 282 「対談：有田芳生：オウム的なものを追及して」 教育と文化 96年5号
- 283 「新しい時代の公務員像」 みがく 97年
- 284 「新しい時代の公務員像とリーダーの責任」 研修協議会だより 97年10月47号
- 285 「教員養成制度の改革と課題」 教職研修 97年12号
- 286 「中高一貫と受験戦争の緩和」 教職研修 97年12号
- 287 「授業者列伝 大村はま一人とその仕事(1)」 中学教育 97年4月号
- 288 「新しいカルチュラル・ツーリズム」 Currents 97年5/7月号
- 289 「授業者列伝 大村はま一人とその仕事(4)」 中学教育 97年7月号
- 290 「対談：教育改革が始まった年」 私学時代 97年12号
- 291 「対談：大村はま：子どもから出発する授業こそ」 教育と文化97年12号7号
- 292 「『出にくい大学』に私大から批判」 内外教育 98年
- 293 「公務員の使命と社会的責任」 研修 98年3月号
- 294 「完全学校五日制への移行と授業時数の縮減」 別冊教職研修 98年7号
- 295 「高等学校入学者選抜の改善」 別冊教職研修 98年8号
- 296 「教育課程の弾力化と特色ある教育活動」 別冊教職研修 98年10号
- 297 「人事行政改革の方向」 人事行政の窓 98年2月8号
- 298 「悲運のエアバック発明者」 ゆうLUCKペン 99年12月号
- 299 「汚職・非行防止に向けて」 シャチ 99年198号
- 300 「公務員倫理について」 群馬自治 99年4月号
- 301 「21世紀の高等教育政策」 日本教育政策学会 99年6月26日～27日
- 302 「大学にとっての社会人教員」 IDE現代の高等教育 99年9月号
- 303 「大学入試改革の方向を考える」 教育と文化 99年15号
- 304 「東大オケの再誕生一極私的80年史」 東京大学音楽部管弦楽団80年史 00年
- 305 「新・新聞倫理綱領」 私学時代 00年8号
- 306 「教育改革国民会議の行方」 教職研修 01年1号
- 307 「これからの地方公務員の服務と倫理」 自治フォーラム 01年2月号
- 308 「少年法の改正と学校」 別冊教職研修 01年2月号
- 309 「教養教育の改革」 教職研修 01年3号
- 310 「学力低下論争の行方」 別冊教職研修 01年5号
- 311 「公務員倫理を考える」 人事行政の窓 01年2月17号
- 312 「レインボープラン」 別冊教職研修 01年7号
- 313 「『公務員制度改革大綱』批判」 人事行政の窓 02年5月21号
- 314 「利益の衝突とアカウンタビリティ」 東北自治69号 2003年3月
- 315 「漂流の果ての無惨」 教育評論 03年4月号
- 316 「東大オケの再誕生一極私的80年史」 東大音楽部管弦楽団 01年8月

- 317 「悲運のエアバッグ開発者」 ゆうLUCKペン第28集 05年12月
- 318 「問われる教師の国際感覚と国民意識」 総合教育技術 90年1月号
- 319 「共通一次試験が生まれるまで」 ひと69号 78年9月
- 320 「誤った文教行革の方向」 臨調答申と自治体 地方の時代／実践シリーズ9 83年
- 321 「今世紀最後で最大の帆船パレード」 他 毎日グラフ別冊「帆船」 80年10月
- 322 「新米記者のほろ苦が『特ダネ』記」 ゆうLUCKペン第27集 04年12月
- 323 「教育過熱＝高学歴化と受験競争で28兆円市場に」 図説日本経済1990 90年4月
- 324 「『昭和的人間』を貫いた人生」 波428号 05年8月号
- 325 「地球の裏側を走る [南米3万キロ走破]」 毎日グラフ1514号 78年10月
- 326 「国際標準化機構と文書・記録管理—ISO15489について」 文化情報学研究所報第4号 04年3月

【新聞の特集】

社説は約500本を執筆したが、無署名なので題名を掲載しない。署名記事のうち、全ページあるいは複数ページを単独執筆したものが20ないし30本ある。ここには1970年代初めの一部を掲載する。

- 1 毎日新聞日曜版 (全1ページ) 1970年4月12日 神話と伝説の島 キプロス
- 2 毎日新聞特集面 (全2ページ) 1972年1月30日
 - 教育改革進める アメリカの実験
 - ロサンゼルス的小学校で ニューヨークの高校で
 - 改革の旗手 UCLA グッドラッド教授
- 3 毎日新聞特集面 (全2ページ) 1972年2月25日
 - 教育とは何かを問う 海外異色の学校をみる
 - パークウェイ オープンユニバーシティ
- 4 毎日新聞特集面 (全2ページ) 1972年3月29日
 - 二つの国にみる「教育革命の現実」
 - アメリカとフランス
- 5 毎日新聞特集「ヨーロッパの若者たち」
 - ① マリワナ文明 1970年4月14日
 - ② 自由な性 4月18日
 - ③ ファッション革命 4月21日
 - ④ ヒッピー精神 4月25日
 - ⑤ 学生の反乱 4月28日
 - ⑥ プロボの子ら 5月2日
 - ⑦ ノン・アカデミー 5月7日